

ペットは家族の一員です ルールを守って 楽しく共生生活

忙しい現代社会では、生活に癒やしや安らぎを求めて犬や猫などのペットを飼育する人が多くいます。しかし、ペットを飼育することが時には近隣トラブルを招くこともあります。人とペットが快適に暮らしていくためには、地域社会に気を配りながら、適切にしつけを行うなどの飼育管理をすることが必要です。ペットの習性や行動をよく理解し、責任をもって飼いましょう。

☎712-6309環境保全課



ペットと暮らす安らぎの生活

ペットには、飼い主のリラックス効果や運動量の増加など、人の心と体の健康を高める効果があるとされています。ペットは単なる愛玩の対象としてではなく、家族の一員、あるいは人生のパートナーとして飼い主との関係が深まっています。



犬の保護活動ボランティア団体
代表 金子さん

飼う前のシミュレーションも大切です

平成5年から、600頭以上の身寄りのない犬の保護活動を行ってきました。現在もシェルターで16頭を保護しています。保護した犬を、譲渡会などで無事に新しい飼い主へと手渡すことができましたときに喜びを感じます。ペットも小さいうちは手がかかりませんが、しつけが大変、言うことを聞かない、病気、老いといった問題が出てきます。ペットを終生飼育できるのか、飼う前にシミュレーションしましょう。

飼い主になるということは全てに責任をもつこと

ペットを迎え入れる準備はできていますか?

命を預かる責任 「ペットを飼う」ということはそのペットの命を預かるということです。



快適で安全な環境を提供する



命を終えるまで飼い続ける



老いに向き合う

社会に対する責任 ペットを大切に思うあまり、周囲への配慮を忘れていませんか?



ルールやマナーを守り
周辺地域を汚したり
迷惑をかけない



人に危害を
及ぼさない



自然環境に
影響を及ぼさない



不幸な命を増やさないために

飼育放棄や迷子、飼い主がいなどの理由で、まだ多くの犬や猫が動物愛護センターや健康福祉センター(保健所)に引き取られています。保護された犬猫のほとんどは、犬につけことが義務付けられている

鑑札や、身元がわかる迷子札などを付けていないため、飼い主の元に帰ることができません。言葉が話せない動物だからこそ、言葉の代わりになる 鑑札、迷子札、マイクロチップなどを装着し所有者明示しておきましょう。

飼わない決断も大切

「適切な世話ができないから、今は飼わない」と決断することも「ペットの命を預かる責任」を果たすことになります。

犬の飼い主マナー

飼い主は、犬の生涯に1回の登録及び毎年一回の狂犬病予防注射の接種ならびに接種したことの登録が「狂犬病予防法」で義務付けられています。各種登録は、市役所で行います。3面の「狂犬病予防集合注射」もご覧ください。



放し飼いは禁止されています
リードを付けて散歩しましょう



フン尿の後始末を
確実にしましょう



鳴き声が近所迷惑に
ならないようにしましょう



猫の飼い主マナー

猫にはけい留義務や登録制度がありません。それだけに好きなところに行ってしまう、飼い主の知らない所で、フン尿被害等他人に迷惑をかけている場合もあります。



交通事故や感染症を防ぐため、
室内で飼いましょう



自分の飼っている
猫であることを
明確にするために
名札をつけましょう



避妊去勢手術を
しましょう

災害時のペット対応

市ではできる限りペット(犬・猫)を同行して避難することができるように体制を整えています。ただし、避難所には動物が苦手な方も避難することから、人とペットは別々の場所で生活します。その場合、飼い主の責任の下、避難所でのルールを守りながらペットを管理することになります。なお、避難所の状況によっては受け入れ困難な場合もあります。

飼い主が普段から最低限用意しておくもの

- ◆5日分以上のフードと水
- ◆薬、療法食
- ◆食器
- ◆予備の首輪・リード(伸びないタイプ)
- ◆キャリーバッグ・ケージ
- ◆その他(個人で必要なもの)



ペットがいなくなったら

ペットがいなくなったらすぐに捜しましょう。保護されていることもあるので市川健康福祉センター(市川保健所)、動物愛護センター、警察署に問い合わせください。

- ◆市川健康福祉センター(市川保健所) 南八幡5-11-22 ☎377-1103
- ◆市川警察署 鬼高4-4-1 ☎370-0110
- ◆千葉県動物愛護センター東葛飾支所 柏市高柳1018-6 ☎04-7191-0050
- ◆行徳警察署 塩浜3-10-18 ☎397-0110

市川浦安地域獣医師会 会長 平田 真二氏

平成7年の開院以来、犬猫を中心に多くのペットを診察してきました。昔と比べてペットを家族として深く接する人が増え、ペットも長寿命化してきています。そのため、がんや生活習慣病などペットがかかる病気も変化してきていると感じます。病状が進行してからでは対応できないことが限られてしまうので、早期発見、早期治療をするために定期的に獣医師の診察を受けることをおすすめします。

